

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和4年5月25日時点

開催日時	開催場所・形式	名称
5月28日（土） 13：30～16：35	オンライン開催	学術フォーラム コロナ禍を共に生きる#7 「新型コロナウイルス感染症のレジストリ研究の現状と今後の方向性 医療情報の収集と活用による対策について」
5月31日（火） 10：00～17：30	日本学術会議講堂（ハイブリッド開催） もしくはオンライン開催	公開シンポジウム 「第34回環境工学連合講演会」
6月3日（金） 10：00～18：00	日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）	公開シンポジウム 「活動的縁辺域における洋上風力開発に向けて」
6月5日（日） 13：00～17：00	日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）	学術フォーラム 「持続可能な社会を創り担うための教育と学習のチャレンジ」
6月7日（火） 13：00～17：00	岡崎コンファレンスセンター（ハイブリッド開催）	分子科学研究所所長招聘会議 公開シンポジウム 「日本の人材育成を考える」
6月11日（土） 14：40～16：40	武庫川女子大学（ハイブリッド開催）	公開シンポジウム 「栄養と栄養補助食品に関する公益社団法人日本栄養・食糧学会、韓国食品栄養科学会、日本学術会議合同シンポジウム」 JSNFS, KFN and SCJ Joint Symposium on Nutrition and Nutraceuticals
6月18日（土） 13：00～16：45	オンライン開催	公開シンポジウム 「ムシを極める！昆虫分類学のフロンティア」
6月25日（土） 13：30～17：30	オンライン開催	公開シンポジウム 「アーカイブズ専門職問題の新潮流（第27回史料保存利用問題シンポジウム）」
6月29日（水）～ 7月1日（金） 9：20～19：00	オンライン開催	公開シンポジウム 「安全工学シンポジウム2022」

※新型コロナウイルス等の状況により、開催形態が変更となる可能性がありますので、学術フォーラム等の参加前には日本学術会議ホームページを御確認ください。

新型コロナウイルス感染症の レジストリ研究の現状と今後の方向性

医療情報の収集と活用による対策について

2022年5月28日(土) 13:30～16:35

オンライン開催



新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、様々な医学的・社会的な課題を引き起こしております。これらの課題に適切に対応するには、医療機関を受診された患者さんの情報を収集して解析したレジストリの結果に基づくことが重要です。本学術フォーラムでは、レジストリとは何か、収集された医学情報管理はどの様になっているかに触れながら、我が国で進められている、COVID-19に関するレジストリの状況や成果、課題と今後の方向性を含めて分かりやすくお話いただき、皆様と広く共有したいと考えております。

【コーディネーター】

日本医学会連合：名越澄子(理事)、磯 博康(副会長) 日本学術会議：尾崎紀夫(第二部幹事)

主催：日本学術会議、日本医学会連合

後援：日本生命科学アカデミー

参加フォーム：<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0114.html>



司会：名越澄子(日本学術会議第二部会員兼日本医学会連合理事)

磯 博康(日本学術会議第二部会員兼日本医学会連合副会長)

挨拶：梶田隆章(日本学術会議会長) 門田守人(日本医学会連合会長)

「疾患レジストリとは、その意義と倫理的側面」

玉腰暁子(日本学術会議連携会員、北海道大学大学院医学研究院教授)

「COVID-19レジストリの立ち上げ・運用・利活用の経験」

大曲貴夫(国立国際医療研究センター国際感染症センター長・感染症内科医長)

「妊婦COVID-19レジストリ」

山田秀人(手稲漢仁会病院不育症センター長)

「COVID-19後遺症(Long-COVID)にみられる神経症候」

高尾昌樹(国立精神・神経医療研究センター病院臨床検査部部長)

「COVID-19に関わるメンタルヘルス不調レジストリ」

中込和幸(国立精神・神経医療研究センター理事長)

「コメント(法的な立場から)」

磯部 哲(慶應義塾大学法科大学院教授)

閉会の挨拶：武田洋幸(日本学術会議第二部部長)



第34回 環境工学連合講演会

環境工学の22世紀

2022.5.31 日

日本学術会議講堂 + オンライン開催

日 時

2022年5月31日(火) 10:00～17:30

参 加 費

無料 (講演論文集は、PDF版をメールにて配布いたします)

申 込 み

専用フォーム <https://rengo34.peatix.com/view>
よりお願いします



専用フォーム
スマートフォン用
QR コード

(定員 現地参加130名/オンライン参加500名・申込み先着順, 定員に余裕がある場合当日参加も受け付けます)

※新型コロナウイルス感染症の状況により完全オンライン開催に変更となる可能性があります

オンライン講演会
アクセス

上記フォームで申込後、
自動配信メールにてZOOMウェビナーおよび
講演会論文集へのリンク情報をお送りします。

問い合わせ先

日本化学会 事務局 環境工学連合講演会担当 (E-mail: env_safe@chemistry.or.jp)

主 催

日本学術会議土木工学・建築学委員会

カーボンニュートラルへの取組み

共 催

化学工学会、環境科学会、環境資源工学会、空気調和・衛生工学会、
資源・素材学会、地盤工学会、静電気学会、大気環境学会、土木学会、
日本LCA学会、日本化学会(幹事学会)、日本機械学会、日本建築学会、
日本水道協会、日本セラミックス協会、日本鉄鋼協会、日本土壌肥料学会、
日本分析化学会、日本水環境学会、廃棄物資源循環学会

タイムテーブル

開会 (10:00～10:15)

開会挨拶:

田辺 新一(日本学術会議第三部会員／早稲田大学)
米田 雅子(日本学術会議第三部会員／東京工業大学)

招待講演

地球環境・生活環境1 (10:15～11:15)

座長: 八重樫咲子(土木学会／山梨大学)

環境地盤工学分野の創生と現在、そして22世紀に向けて
遠藤 和人(地盤工学会／国立環境研究所)

環境問題解決に向けた最先端の土壌肥料学分野と
今後の展開
仁科 一哉(日本土壌肥料学会／国立環境研究所)

健全な水循環を実現する環境工学テクノロジー
山村 寛(日本水環境学会／中央大学)

地球環境・生活環境2 (11:25～12:25)

座長: 梅村知也(日本分析化学会／東京薬科大学)

人口減少社会における持続可能な下水道への挑戦
～産官学による新技術開発と地域課題の解決～
藤原 拓(土木学会／京都大学)

化学成分に着目したPM2.5の発生起源解析
池盛 文数
(大気環境学会/名古屋市環境科学調査センター)

22世紀の機器分析
佐々木 直樹(日本分析化学会／立教大学)

基調講演

基調講演 (13:30～14:00)

座長: 水川 薫子(日本化学会／東京農工大学)

環境に優しい有機合成法を目指して
石原 一彰(日本化学会／名古屋大学)

招待講演

カーボンニュートラルと資源循環1 (14:10～15:50)

座長: 一ノ瀬 俊明(環境科学会／国立環境研究所)

22世紀のプラスチックリサイクルを考える
熊谷 将吾(廃棄物資源循環学会／東北大学)

持続的熱利用技術の未来
齋藤 潔(日本機械学会／早稲田大学)

炭素循環による持続的な食料生産への一歩
中井 智司(化学工学会／広島大学)

カーボンニュートラル・ウェルネス建築デザインを支える
エビデンス
伊香賀 俊治(日本建築学会／慶應義塾大学)

未来社会に向けたデータ駆動型資源循環システム
松本 亨(環境科学会／北九州市立大学)

カーボンニュートラルと資源循環2 (16:00～17:20)

座長: 醍醐 市朗(日本鉄鋼協会／東京大学)

22世紀を支える鉄鋼業の価値と課題
畑山 博樹(日本鉄鋼協会／産業技術総合研究所)

資源利用に関わる多様なサプライチェーンリスクの
可視化にむけて
松八重 一代(日本LCA学会／東北大学)

資源循環促進に向けた物理選別技術開発の将来
大木 達也(環境資源工学会／産業技術総合研究所)

非鉄製錬業の金属資源循環への貢献
柴田 悦郎(資源・素材学会／東北大学)

閉会 (17:20～17:30)

第34回環境工学連合講演会の総括:

森口 祐一(日本学術会議連携会員／国立環境研究所)

開会挨拶:

前川 宏一(日本学術会議第三部会員／横浜国立大学)



公開シンポジウム

「活動的縁辺域における洋上風力開発に向けて」

日 時：令和4年6月3日（金）10：00～18：00

場 所：日本学術会議講堂およびオンライン配信

参加方法：このリーフレットの最後をご覧ください。

開催趣旨：政府は2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現をめざすと宣言している。風力発電については、現在約440万キロワットであるが、2030年に洋上風力だけで1千万キロワット、2050年には9千万キロワットにしているとしている。この目標達成のために、再エネ海域利用法を施行し、気象、海象などの自然現象、港湾などの保全、漁業保全、海洋環境の保全などの条件を規定している。しかし日本のような活動的縁辺域の浅海域には、液状化、海底地すべりなどの地質災害リスクがある。そのため用地選定や設計のための地質災害リスク評価が必要となる。また津波、波浪の影響の評価も必要になる。洋上からの送電も課題となる。

本シンポジウムでは、活動的縁辺域における洋上風力発電開発の課題を議論し、その解決策を議論する。

主 催：日本学術会議総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会、日本学術会議地球惑星科学委員会 IUGS 分科会

共 催：IUGS、公益社団法人日本地球惑星科学連合

後 援：公益社団法人日本地すべり学会、国際津波防災学会、公益社団法人物理探査学会、海底地質リスク評価研究会、International Consortium on Landslides、National Taiwan University

次 第

司 会：岩城 智香子（日本学術会議 連携会員）

セッション1 洋上風力発電の現状（コンビーナ：松島 潤）

10：00 「洋上風力の主力電源化を目指して」

土谷 学（一般社団法人 日本風力発電協会 理事）

10：20 「NEDO の活動について」

三枝 俊介（国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 新エネルギー部 風力・海洋グループ 主査）

10：40 「洋上風力のエネルギー収支比とコスト」

松島 潤（東京大学大学院 新領域創成科学研究科 環境システム学専攻 教授）

休憩（10分）

セッション2 海底地質災害の事例紹介（コンビーナ：成瀬 元）

11：10 「日本の古津波と将来のリスク」

後藤 和久（東京大学大学院 理学系研究科 教授）

11：30 「深海底の地質災害リスク：地震・津波起源混濁流の例」

成瀬 元（京都大学 理学研究科 准教授）

休憩（10分）



セッション3 地質災害リスク評価手法（コンビーナ：野村 英雄）

12:00 「海底地盤安定性リスク評価のための音波探査」

小澤 岳史（株式会社 地球科学総合研究所 営業部長）

12:20 「沿岸・海底域のジオハザードリスクの評価予測」

佐々 真志（国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 地盤研究領域
動土質研究グループ グループ長）

12:40 「Assessment of geohazards for the development of offshore wind export cables」（動画）

Paul Dimmock（Norwegian Geotechnical Institute）



昼食（60分）

セッション4 リスク評価のための既存データ（コンビーナ：佐藤 智之）

13:50 「JAMSTEC のデータ紹介」

木戸 ゆかり（国立研究開発法人 海洋研究開発機構 研究プラットフォーム運用開発部門 運用部
研究航海マネジメントグループ 技術主任）

14:10 「海上保安庁のデータ」

長坂 直彦（海上保安庁 海洋情報部 情報利用推進課 課長補佐）

14:30 「海底地質図およびその元データについて」

佐藤 智之（国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター 地質情報研究部門
地球変動史研究グループ 主任研究員）

14:50 「Seabed 2030: Compiling archived and recent datasets」（動画）

Jaya Roperez（National Institute of Water and Atmospheric Research; NIWA）

休憩（10分）

セッション5 国際協力（コンビーナ：大久保 泰邦）

15:10 「IUGS の活動」

北里 洋（日本学術会議 特任連携会員、国立大学法人 東京海洋大学 教授）

15:30 「活動域縁辺域における再生可能エネルギー開発に関する国際協力」

大久保 泰邦（日本学術会議 連携会員）

15:50 「Environmental impacts of deep water offshore wind」（動画）

Robert M Dorrell（University of Hull）

16:00 「台湾の事例」（動画）

張日新（台湾国立大学 助教授）



休憩（10分）

セッション6 人材育成と社会との関わり（コンビーナ：川村 喜一郎）

16：20 「大学教育における人材育成のあり方」

川村 喜一郎（山口大学大学院 研究教授）

16：40 「Innovative training for new industries」（動画）

James M Gilbert（University of Hull 教授）

16：50 「地域活性化につながる洋上風力発電事業開発のあり方」

竹内 彩乃（東邦大学 理学部 生命圏環境科学科 講師）



休憩（10分）

17：20 「パネルディスカッション：提言に向けて」

パネリスト：松島 潤、成瀬 元、野村 英雄（基礎地盤コンサルタンツ株式会社 執行役員）、佐藤 智之、大久保 泰邦、川村 喜一郎

参加方法：入力フォーム（以下の URL をクリックしてください）

<https://forms.gle/VAdC5uuHxP5PwwS99>

上記の入力フォームから「メールアドレス、氏名」を記入し、参加登録してください。入力フォームに「会場参加」と「リモート参加」のいずれかを選択してください。当日の会場は定員 170 名となっています。参加をご希望の方は、お早めにお申し込みください。

お問い合わせ先：大久保 泰邦（sssgr_support@kiso.co.jp）

Symposium of Offshore Wind Power Generation at Active Margins

3 June (Fri.) 2022, 10:00–18:00

Admission fee: FREE

Presentation: Online presentation and question and answer by Chat

Language: English or Japanese

How to participate: Application form is available at the official site of the Science Council of Japan

The government has declared that it aims to realize a carbon-neutral, carbon-free society in 2050. The amount of wind power generation is currently about several million kW, and it is said that it will be more than ten million kW for offshore wind power alone in 2030. In order to achieve this goal, we need to enforce the law associated with renewable energy, which stipulates various conditions such as weather, sea conditions, conservation of harbors, fishery conservation, and conservation of the marine environments.

However, there is a risk of marine geological disasters such as liquefaction and submarine landslides in shallow waters at active margins such as Japan. Therefore, marine geological risk assessment for site selection and design is required. It is also necessary to evaluate the effects of tsunamis and ocean currents. Power transmission from the ocean is a risk as well.

In this symposium, we discuss these issues in terms of offshore wind power development in activity margins and discuss the solutions.

Organizers: Science Council of Japan

Co-Organizers: IUGS, Japan Geoscience Union

Supporters: The Japan Landslide Society, International Tsunami Disaster Prevention Society, The Society of Exploration Geophysicists of Japan, The Society for Study of Submarine Geological Risks (SSSGR), International Consortium on Landslides, National Taiwan University

Coordinator: **Chikako Iwaki** (Science Council of Japan)

Session 1 Current status of offshore wind power generation (Convener: **Jun Matsushima**)

10:00 Aiming to offshore wind powers for main power supply

Dr Manabu Tsuchiya (Director, Japan Wind Power Association)

10:20 Activities of NEDO

Shunsuke Saegusa (Project Coordinator, Offshore Wind & Ocean Energy, New Energy Technology Department, New Energy and Industrial Technology Development Organization)

10:40 Cost and balance ratio of energy on Offshore wind powers)

Prof Jun Matsushima (Department of Environment Systems, Graduate School of Frontier Sciences, The University of Tokyo)

10 min. break

Session 2 Introduction of marine geological hazards (Convener, Hajime Naruse)

11:10 Japanese paleotsunamis and future risks

Prof Kazuhisa Goto (School of Science, The University of Tokyo)

11:30 Risk assessment of deep seafloor geohazards: an example of earthquake-tsunami induced turbidity currents

Dr Hajime Naruse (Graduate School of Faculty of Science, Kyoto University)

10 min. break



Session 3 Methodology for risk evaluation of geological disasters (Convener: Hideo Nomura)

12:00 Seismic survey for risk evaluation of seabed and near surface.

Takeshi Kozawa (Manager, JGI, Inc.)

12:20 Evaluation and prediction of geohazard risks at littoral and offshore regions

Dr Shinji Sassa (Research Director, International Research Center for Coastal Disasters, Ocean Infrastructure Research Center, Port and Airport Research Institute, National Institute of Maritime, Port and Aviation Technology)

12:40 Assessment of geohazards for the development of offshore wind export cables (Movie)

Dr Paul Dimmock (Norwegian Geotechnical Institute)

Lunch (60 min.)

Session 4 Archive data for risk evaluation (Convener: Tomoyuki Sato)

13:50 Introduction of JAMSTEC database

Dr Yukari Kido (JAMSTEC)

14:10 Database of Japan Coast Guard

Dr Naohiko Nagasaka (Hydrographic and oceanographic department, Japan Coast Guard)

14:30 Marine geological maps and its original data

Dr Tomoyuki Sato (Geological Survey of Japan, AIST)

14:50 Seabed 2030: Compiling archived and recent datasets (Movie)

Jaya Roperez (National Institute of Water and Atmospheric Research; NIWA)

10 min. break

Session 5 international cooperation (Convener: Yasukuni Okubo)

15:10 Activities of IUGS

Prof. Hiroshi Kitazato (Science Council of Japan, Tokyo University of Marine Science and Technology)

15:30 International cooperation associated with renewable energy development at active margins

Dr Yasukuni Okubo (Science Council of Japan)

15:50 Environmental impacts of deep water offshore wind (Movie)

Dr Robert M Dorrell (University of Hull)

16:00 Examples in Taiwan (Movie)

Dr Jih-Hsin Chang (Institute of Oceanography, Nation Taiwan University; Ocean Center, Nation Taiwan University)

10 min. break

Session 6 Relation to capacity development and our society (Convener: Kiichiro Kawamura)

16:20 Capacity development at Universities

Prof Kiichiro Kawamura (Graduate School of Science and Technology for Innovation, Yamaguchi University)

16:40 Innovative training for new industries (Movie)

Prof James M Gilbert (University of Hull)

16:50 Offshore wind power development leading towards regional revitalization

Dr Ayano Takeuchi (Department of Environmental Science, Faculty of Science, Toho University)

10 min. break

17:20 Panel discussion: the recommendations to our society

Panelists: **Jun Matsushima, Hajime Naruse, Hideo Nomura, Tomoyuki Sato, Yasukuni Okubo, Kiichiro Kawamura**

Contact person: Yasukuni Okubo (sssgr_support@kiso.co.jp)



日本学術会議主催 学術フォーラム
持続可能な社会を創り担うための
教育と学習のチャレンジ

2022 年6月5日 (日) 13:00～17:00

場所：日本学術会議講堂（オンラインを併用）

お申込み：日本学術会議事務局学術フォーラム担当 <https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0110.html>

（参加費無料）

TEL: 03-3403-6295



企画：日本学術会議フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会 持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会

後援：Future Earth 国際事務局日本ハブ、Future Earth 日本委員会、地理学連携機構、日本ESD学会、ESD活動支援センター、NPO法人ESD-J、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

持続可能な世界を目指す国際プログラムであるフューチャー・アース、SDGs（国連持続可能な開発目標）、ESD（持続可能な発展のための教育）などの活動が活発化していますが、それらの推進には学術と社会、それに教育、特に学校教育との連携が重要です。カリキュラムマネジメントと評価、地域における学習の実践、学校と地域の連携などについての議論も深める必要があります。これらについて研究者、現場教員（生徒も含む）などからの報告を参考に、参加者全員で多角的に考えましょう。研究者や教員だけでなく、中高生、大学生、一般の皆様も是非ご参加ください。

総合司会：福士 謙介（日本学術会議連携会員、東京大学未来ビジョン研究センター教授・副センター長）

窪川かおる（日本学術会議連携会員、帝京大学先端総合研究機構客員教授）

13:00 開会挨拶・趣旨説明

水見山幸夫（日本学術会議連携会員、北海道教育大学名誉教授）

13:15 第I部 持続可能な社会に向けた学術・社会・教育の連携

・ 13:15 「フューチャー・アースのチャレンジ」

春日 文子（日本学術会議連携会員、国立環境研究所特任フェロー／Future Earth 国際事務局日本ハブ事務局長）

・ 13:30 「SDGsの達成に資する ESD for 2030」

及川 幸彦（奈良国立大学機構・奈良教育大学准教授）

・ 13:45 「ESDをめぐるこれまでの進展と今後の展望」

鈴木 克徳（NPO 法人ESD-J 理事）、横田 美保（NPO 法人ESD-J 事務局長）

・ 14:00 「ESD/SDGs のカリキュラム開発」

小金澤孝昭（日本学術会議特任連携会員、宮城教育大学名誉教授）

・ 14:15 「海の学びのカリキュラム開発」

日置 光久（日本学術会議連携会員、希望が丘学園統括顧問）、小熊 幸子（窪川平和財団海洋政策研究所研究員）

14:30 休憩

14:40 第II部 持続可能な社会を創り担うための教育と学習の実践

・ 14:40 「津波の授業モデルの開発と実践」

丹羽 淑博（日本学術会議特任連携会員、前東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター特任准教授）

・ 14:55 「水害防災教育カリキュラムの開発～吉野川市の実践～」

川真田早苗（北陸学院大学子ども教育学科教授）

・ 15:10 「ESDカリキュラムと評価～大曲南中学校の実践～」

島田 智（秋田県大仙市立大曲南中学校校長）

・ 15:25 「地域全体で進める持続可能な社会の創り手の学び～大牟田市の実践～」

安田 昌則（前大牟田市教育委員会教育長）、高倉 洋美（大牟田市立宮原中学校教頭）

・ 15:40 「学校と地域社会の連携～飯田市の実践～」

小玉 敏也（麻布大学生命・環境科学部教授）

16:00 ディスカッション

ディスカッション司会：山口しのぶ（日本学術会議連携会員、東京工業大学環境・社会理工学院教授）

高倉 美帆（前東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター特任研究員）

16:55 閉会挨拶

鈴木 康弘（日本学術会議連携会員、名古屋大学減災連携研究センター教授）

17:00 閉会

内容に関する問い合わせ：fukushiscj@gmail.com（東京大学未来ビジョン研究センター 福士謙介）

日本の人材育成を考える

開催日

2022年6月7日(火) 13:00 ~ 17:00

場所 岡崎コンファレンスセンター

(愛知県岡崎市) (ハイブリッド開催)

(新型コロナウイルスの状況により、開催形態が変更となる可能性もあります)

13:00

開会挨拶

渡辺 芳人 (日本学術会議連携会員、分子科学研究所所長)

13:15

趣旨説明

茶谷 直人 (日本学術会議第三部会員、大阪大学名誉教授)

13:25

松尾 泰樹 (内閣府科学技術・イノベーション推進事務局長)

「過去20年の博士支援の総括」

14:10

豊田 良順 (東北大学大学院理学研究科助教)

「私が体感した日本と欧州の博士人材育成の違い」

14:50

休憩

14:55

高柳 大 (味の素株式会社)

「VUCA の時代の企業における博士人材の役割と期待」

15:30

菅 裕明 (日本学術会議第三部会員、東京大学大学院理学系研究科教授、日本化学会会長 (予定))

「日本の悪しき就職活動を変えなければ博士人材育成の改革はできない」

16:10

総合討論

(司会) 玉田 薫 (日本学術会議第三部会員、九州大学先端物質化学研究所教授)

(討論参加者) 上記講演者

関根 千津 (日本学術会議第三部会員、株式会社住化技術情報センター代表取締役社長) (予定)

17:00

閉会

主催：日本学術会議化学委員会 大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所
公益社団法人日本化学会戦略企画委員会

お申込み先：岡本 裕巳 (日本学術会議第三部会員、分子科学研究所 研究総主幹・メゾスコピック計測研究センター 教授)
https://www.ims.ac.jp/research/seminar/2022/06/07_5461.html



日本栄養・食糧学会 (JSNFS) 韓国食品栄養科学会 (KFN) ジョイントシンポジウム



JSNFS & KFN Joint Symposium on Nutrition and Nutraceuticals

共同主催：日本学術会議IUNS分科会

日時：2022年6月11日（土）14:40～16:40

会場：武庫川女子大学 A会場、Zoom配信



大会HP

大会HP： <https://www2.aeplan.co.jp/jsnfs2022/> よりアクセス

Greetings

Hisanori Kato (Professor, The University of Tokyo, Japan; Chair,
Organizing Committee of 22nd IUNS-ICN; Member, Science Council of Japan)

Ryu Ki-Hyung (Professor, KongJu National University, Korea; President, KFN)

Chair

Hitomi Kumagai (Professor, Nihon University, Japan; Member, Science Council of Japan)

Sung-Soo Park (Professor, Jeju National University, Korea)

Presentation

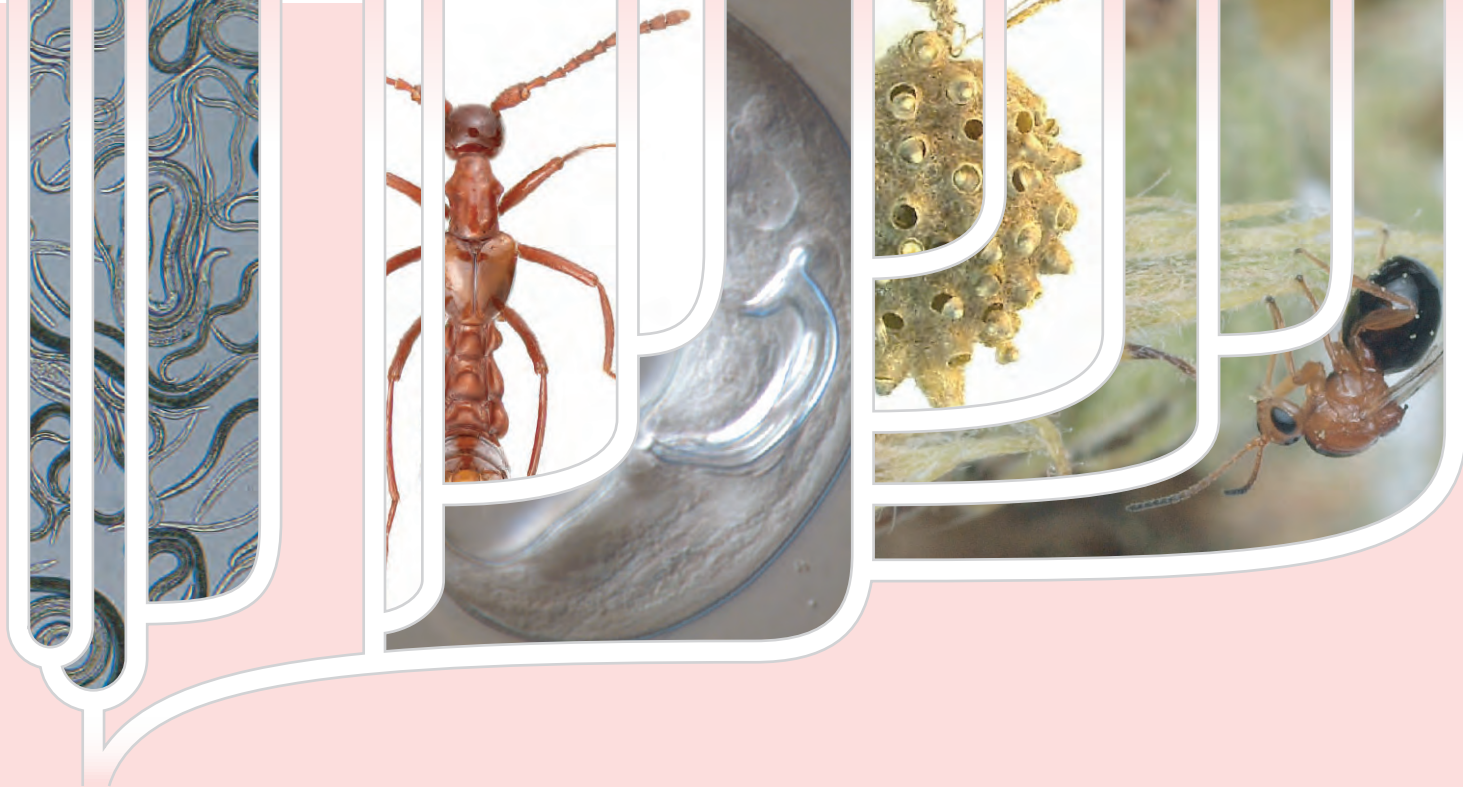
Daeung Yu (Assistant Professor, Changwon National University, Korea)
“Application of Electromagnetic Energy in Food Sterilization”

Yoko Yamashita (Associate Professor, Kobe University, Japan)
“Studies on the bio-regulatory function of procyanidin from the viewpoints of the multiple-organs crosstalk and circadian rhythm”

Jung-Heun Ha (Assistant Professor, Dankook University, Korea)
“Ocular vasculature and inflammation are prevented by grape polyphenols supplementation”

Yukako Okazaki (Professor, Fuji Women's University, Japan)
“Comparative effects of edible mushrooms on colonic luminal environment”

参加資格：第76回日本栄養・食糧学会大会への参加登録



第12回 日本昆虫科学連合・日本学術会議 公開シンポジウム

「ムシを極める！ 昆虫分類学のフロンティア」

参加費無料

要事前登録

定員1000名

今年もオンライン開催です！

2022年6月18日(土)

13:00~16:45

●活動報告

13:00~13:15

日本学術会議農学委員会応用昆虫学学科会活動報告 小野 正人（日本学術会議連携会員、玉川大学学術研究所所長）

13:15~13:25

日本昆虫科学連合活動報告 志賀 向子（日本学術会議連携会員、日本昆虫科学連合代表、
大阪大学大学院理学研究科教授）

●講演

座長：池田 素子（日本学術会議第二部会員、名古屋大学大学院生命農学研究科教授）

13:30~14:00

1) 前藤 薫（神戸大学大学院農学研究科教授）

「昆虫多様性のフロンティアを求めて」

14:00~14:30

2) 神崎 菜摘（森林総合研究所関西支所主任研究員）

「線虫の記載分類：隠蔽種との戦い」

14:30~15:00

3) 井手 竜也（国立科学博物館動物研究部研究員）

「やってよかった昆虫分類学」

15:00~15:20 休憩

15:20~15:50

4) 河上 康子（大阪市立自然史博物館外来研究員）

「アマチュアが分類学を楽しむこと・できること」

15:50~16:20

5) 丸山 宗利（九州大学総合研究博物館准教授）

「アリの巣をめぐる旅」

●総合討論

16:20~16:45

座長：池田 素子

詳細・登録は
こちら

ここをクリック

5月18日より
登録受付開始

クリックでジャンプできない場合

ブラウザにURLをご入力ください

[http://www.insect-sciences.jp/
conferences/domestic-conferences/12.html](http://www.insect-sciences.jp/conferences/domestic-conferences/12.html)

問い合わせ先：日本昆虫科学連合事務局 後藤慎介（大阪公立大学 大学院理学研究科） E-mail: contact@insect-sciences2.sakura.ne.jp

主催

日本昆虫科学連合



日本学術会議農学委員会応用昆虫学学科会



アーカイブズ専門職 問題の新潮流

日時：2022年6月25日(土) 13:30～17:30
オンライン（Zoom）開催〈参加費無料／先着順受付〉

参加登録はこちらから〈<https://tinyurl.com/3n68strv>〉



開会挨拶：若尾 政希（日本歴史学協会委員長／日本学術会議会員／一橋大学教授）

報 告

野口 朋隆（昭和女子大学准教授）・牧野 元紀（昭和女子大学准教授）

昭和女子大学のアーキビスト養成教育—現状と展望—

蓮沼 素子（大仙市アーカイブズ副主幹）

アーキビストの専門性の確立と地位向上にむけた現状と課題

新井 浩文（日本歴史学協会国立公文書館特別委員会幹事）

公文書館専門職のこれまでとこれから

—認証アーキビストの拡充に向けて—

梅原 康嗣（国立公文書館統括公文書専門官）

アーキビスト認証の拡充検討について

—全国公文書館長会議構成館に対するアンケート調査結果を中心に—

コメント 高埜 利彦（日本学術会議連携会員／学習院大学名誉教授）

パネルディスカッション

パネリスト：野口朋隆／牧野元紀／蓮沼素子／新井浩文／梅原康嗣

司会：大友 一雄（日本歴史学協会国立公文書館特別委員会委員長）

佐藤 孝之（日本歴史学協会史料保存利用特別委員会委員長）

閉会挨拶：栗田 禎子（日本学術会議会員／千葉大学教授）

主催：日本学術会議史学委員会・日本歴史学協会・

日本学術会議史学委員会歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会

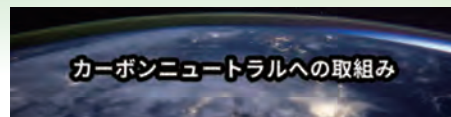
後援：全国歴史資料保存利用機関連絡協議会・日本アーカイブズ学会

安全工学シンポジウム2022

気候変動を見据えた安全・安心・安定

「安全工学シンポジウム2022」は、安全工学に関する各分野における問題点提起、優れた研究成果の講演と技術交流により、安全工学および関連分野の発展に寄与することを目的とし、特別講演をはじめオーガナイズドセッション、パネルディスカッション、一般講演等の開催が予定されております。

〔日 時〕 2022年6月29日(水)～7月1日(金)
〔会 場〕 オンライン開催



特別講演 6月30日(木) 12:30～13:30(予定)

気候変動への適応策・緩和策と安全工学

講演者：沖 大幹 氏(東京大学)

パネルディスカッション

- 連携PD 気候変動への適応に向けたこれからの地域社会の構築
PD-1 リスク学の歴史・展開・社会実装
PD-2 新しいモビリティと気候変動・安全・社会デザイン

オーガナイズドセッション

- | | |
|--|-------------------------------------|
| OS-1 化学物質を取り扱う研究現場におけるリスク | OS-13 ものづくり・ひとづくり・ことづくりにおける安全教育の実践例 |
| OS-2 環境配慮型木造建築の普及に向けた国内外の火災安全研究の動向 | OS-14 信頼性と危機管理における想定外の事象への取組み |
| OS-3 プロセス安全の推進 | OS-15 機械安全・労働安全・国際標準化・規格化における世界の潮流 |
| OS-4 災害と防災に関する心理学 | OS-16 カーボンニュートラル施策のリスク検討フレーム |
| OS-5 分野を横断する安全技術 | OS-17 高齢エアバッグの安全性と課題について |
| OS-6 新たな社会状況下における社会安全に関するリスクマネジメントの課題 | OS-18 老朽・遺棄化学兵器廃棄リスク評価・管理の現況と展望 |
| OS-7 安全マネジメントの在り方の再考 | OS-19 安全文化 |
| OS-8 社会安全とAI | OS-20 土木工学における安全問題 |
| OS-9 デジタル社会における電力需要設備のスマートメンテナンスへの健全移行 | OS-21 建設業における労働災害防止の新しい視点 |
| OS-10 ウイズコロナ禍での安全体験研修の在り方 | |
| OS-11 気候変動と安心感 | |
| OS-12 環境に配慮した宇宙推進システムの展望 | |

主催：日本学会会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会
共催：土木学会、他32学協会

参加方法

事前web申し込み(参加は無料ですが、ホームページから参加申し込みが必要です。)
<https://www.anzen.org/index.html>

予稿集販売

webにて事前申し込み(一般5,000円、学生2,000円)(PDFダウンロード版となります)

問合先事務局
公益社団法人 土木学会

[E-mail] anzen@gakkai-web.net
<https://www.anzen.org/index.html>